



刻々 更生

法務省東京矯正管区更生支援企画課

☎048-600-1560 (直通)

1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp

ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00101.html



第24号

令和6年5月9日発行

長野県
松本市

更生誓い集う❀初の女子分校生の入学式



◀生徒代表挨拶

▶池田東京矯正管区長祝辞



松本少年刑務所

旭町中学校桐分校



桐分校に新しい春が来た❀

長野県松本市に所在する松本少年刑務所には、全国で唯一となる刑事施設の中の公立中学校「松本市立旭町中学校桐分校」が設置されています。昭和30年に開設されて以来、776名の卒業生を送ってきた桐分校に、今年4月、初めての女子分校生が入学しました。松本少年刑務所が男子受刑者を収容する施設であるため、これまで入学対象者を男子受刑者に限っていましたが、学び直しの機会を女子受刑者にも設けるため、この度、女子受刑者を収容している全国の施設に募集を行い、5名が入学となりました。入学した桐分校生は、本校である松本市立旭町中学校の3年生に編入され、1年をかけて主要5教科に加え、保健体育、音楽、道徳などを学び、卒業を迎えることとなります。

桐分校が設置された経緯は、昭和28年にさかのぼります。当時、松本少年刑務所に収容中の受刑者のうち約8割の人が就学環

境が不良で、学力が著しく低い状態にあり、新制度義務教育の未修了者でした。

そこで、当時の所長がそのような受刑者を救済し、更生の道を歩ませることを目的に、長野県教育委員会、松本市教育委員会、文部省（当時）との折衝を開始し、当時の旭町中学校の校長の深い御理解もあり、桐分校の設置、昭和30年の開校に至りました。

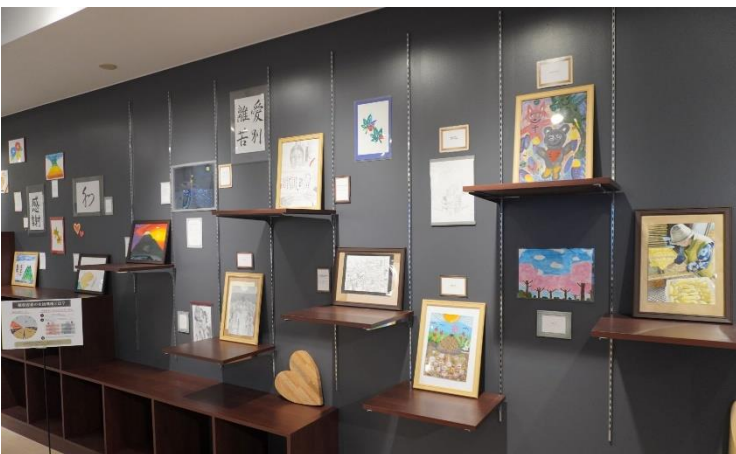
桐分校生は、刑務作業に代えて、松本少年刑務所の職員のほか、外部講師や旭町中学校本校の職員が実施する、1日約7時間の授業に加え、消灯時間後の1時間を含む居室内での3時間の自習時間を自らの学び直しの時間に充てることとなります。

地域の皆様に支えられながら、第70回生を迎えた今年度。分校生が、来春、大きな実りを得て卒業していくことを願います。

静岡県
静岡市

受刑者のアート展示 市民からは激励の声

ART FROMプロジェクト「みんなのHEART展」in静岡市文化クリエイティブ産業振興センター

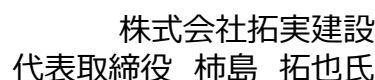


静岡刑務所では、令和5年度から、受刑者の製作するアートを通して地域の皆様に社会復帰に向けて歩んでいる受刑者のことや刑務所のことを知ってもらい、また、地域の皆様とのつながりから受刑者に社会復帰・改善更生の意欲を喚起させるため、小学館集英社プロダクションと共同で「ART FROM プロジェクト」を立ち上げました。

静岡市の協力の下、今年2月17～18日に開催された「みんなのHEART展」では、市民の皆様から作品の感想に加え、「やり直すことに、早い遅いはないと思っています。頑張ってください!!」、「今の気持ちを大切にしたいと思っています」などと受刑者の社会復帰を応援する声をいただきました。

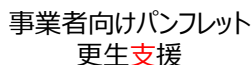
感想を見た受刑者からも、「受刑者に対する励ましや温かい言葉が多いことに驚いた」、「厳しい意見もあり、改めて反省することができた」、「各作品を媒介して、一般市民の方とつながれていることを実感した」などとの感想があり、社会復帰への決意を強めていることがうかがえました。

／今夏も静岡市内等で展示が予定されています！ぜひお立ち寄りください！／



拓実建設には、全国から応募があります。応募が多数ある中で、面接を実施するのは、これまで受刑回数が4、5回までとしていたといいます。その気持ちに変化があったエピソードを話してくださいました。

弊社は「Chance!」という受刑者専用求人誌に掲載していたのですが、結構な数の応募があるので、今までは、書類審査で受刑回数などを見て、面接するかどうかを決めていました。そんな考えが変わったのは、今年（令和5年）雇用したA刑務所の受刑者との出会いでした。彼は7回も刑務所に入っていて、はつきり言ってやり直せるとは思いませんでした。だから、書類審査の時点で不採用ということで返事も出さなかったんです。しかし、彼



から、満期出所が近いため就労指導として来てもらえないかと手紙があり、それなら行ってみようかと思つて、A 刑務所まで会いに行きました。

彼は、7 回の受刑歴全てが賽銭泥棒でした。直接会つたとき、どうしたらやり直せるか聞いたら、自分の身上を話してくれました。家庭環境が複雑で、両親はギャンブル依存だったこと、兄弟とは関係が良くないこと、中学から賽銭泥棒していたこと。

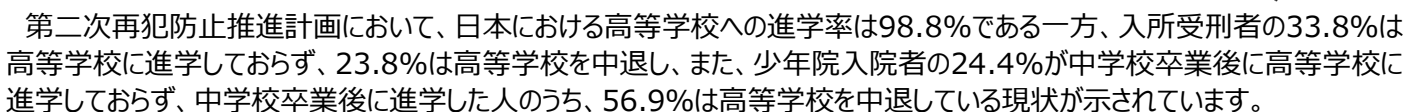
「A 刑務所の中で母の逝去が知らされたとき、母は生活保護を受けていて、自分もお金が無くて、お墓に入れてあげられなかつた。A 母は無縁仏になつてしまつた。A 刑務所の運動場から見える山に母は埋まつていて、掘り起こすことはできない。もう悪いことはできないと感じたんです。」と彼は話していました。

将来は無縁仏の向かいにお墓を買つて、祖父母の墓を移してあげたいと。私はそれを聞いて切なくなりました。

そんな話を聞いて、彼を引き受けました。少ししか経っていないですが、頑張つてくれています。

書類では見えないことがある、一人でも多く会つてみたいと分らないと彼と会つてと感じました。

重点課題（Ⅳ）＜③学校等と連携した修学支援＞



社会においては、就職して自立した生活を送る上では、高等学校卒業程度の学力が求められることが多いのが実情です。そのため、矯正施設では、受刑者や在院者の改善更生や円滑な社会復帰に資するために修学支援や学習支援を行っています。

刑事施設では、教科指導を実施しています。1面でも御紹介した長野県松本市に所在する松本少年刑務所には、日本で唯一となる公立中学校の分校（桐分校）が設置されており、全国の義務教育未修了者等から希望を募り、中学3年生に編入させ、地元中学校の教諭や職員等が、指導を行っています。さらに、松本少年刑務所では、近隣の高等学校の協力の下、全国の刑事施設から希望者を募集して、同高等学校の通信制課程で高等学校教育を実施しており、所定の課程を修了したと認められた人には、高等学校の卒業証書が授与されています。

少年院では、令和３年度から、一部のモデル施設において、在院中から通信制高校に入学し、インターネット等を活用した学習を可能にするとともに、少年院での矯正教育で高等学校学習指導要領に準じて行うものを通信制高校での単位として認定するなどの取組を実施していたところ、本年４月１日からは対象庁を全ての少年院に拡大して実施することとなりました。

そのほかにも、いわゆる高卒認定試験の重点的な受験指導を行うコースを13庁に設置し、外部講師を招へいするなどの体制を整備しており、令和4年度には377人の在院者が高卒認定試験を受験しました。